

第3回 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

■開催日時・場所

平成27年9月3日（木）10時00分～11時45分

美祢市民会館2階 第1、2会議室

■次第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議事
(1) 美祢市人口ビジョン（原案）について【資料1】
(2) 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）について【資料2】
4. その他
5. 閉 会

■配布資料

1. 第3回 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 会議次第
2. 美祢市人口ビジョン（原案）【資料1】
3. 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）【資料2】
4. 結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査結果【資料3】
5. 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 委員名簿・配席表

■会議風景



■出席者名簿

敬称略・順不
◎は会長、○は副会長

区 分		氏 名	出欠席
委員	美祢市議会議員 副議長	岡山 隆	出席
	美祢市議会議員	竹岡 昌治 ◎	出席
	公募委員	田原 義寛	欠席
	公募委員	堀田 勝利	出席
	カルスト森林組合 代表理事組合長	大呑 俊彦 ○	出席
	JA 山口美祢農業協同組合 常務取締役	山本 善継	出席
	美祢市商工会 青年部長	齋藤 秀一郎	欠席
	美祢市観光協会 事務局長	佐々木 秀介	出席
	山口県宇部県民局 局長	楠木 秀己	出席
	山口県立美祢青嶺高等学校 校長	古谷 修一	出席
	山口銀行美祢支店 支店長	末永 博之	出席
	連合山口中部地域協議会美祢地区会議 事務局長	永井 政夫	出席
	山口新聞 支局長	平岩 和也	出席
	美祢市地域組織活動連絡協議会（母親クラブ）会長	田中 よし子	出席
	美祢市青年会議所 社会開発委員長	内海 満夫	出席
事務局	総合政策部長	藤澤 和昭	出席
	総合政策部 企画政策課 課長	佐々木 昭治	出席
	総合政策部 企画政策課 主査	石川 博之	出席
	ランドブレイン株式会社山口事務所 所長	八木 周吾	出席
	ランドブレイン株式会社広島事務所 主任	鈴木 将光	出席

■議事録

1. 開 会

(事務局から開会の宣言と資料の確認が行われた。)

2. 会長あいさつ

竹岡 会長 | 本日、原案審議しまして、来週頃からパブリックコメントに入らないといけない。
10 月末までには議会にも説明が必要である(承認不要)。本日、多くの意見を頂いて
パブリックコメントに持っていけるようにしたい。

3. 議事

(1) 美祢市人口ビジョン(原案)について【資料1】

(説明記録略。事務局から人口ビジョン(原案)について説明が行われた。)

意見・質疑なし

(2) 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)について【資料2】

(説明記録略。事務局から美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)について説明が行われた。)

楠本 委員 | 各地域、地域間競争に勝とうとして、特色のある戦略をつくることに躍起になっている。
美祢市の最大の特色はジオパークであると思っており、まちづくり、ひとづくり、
しごとづくりのそれぞれに関わることであるため、重要戦略に追加する等、もう少し顔
出しする部分を増やしてはどうかと思う。

竹岡 会長 | ジオパーク認定の発表は明日か。パブリックコメント期間中でも見直すか。

事 務 局 | 見直しを行う。

竹岡 会長 | ジオパークの記述は、発表までは控えていた。

内海 委員 | 戦略 P11 1-1-2 の具体的な取組の、空店舗の活用、家賃・店舗改修の助成に当てはま
るかもしれないが、個人商店への起業支援等を考えて頂ければと思う。

P13 イベント開催の支援のスケジュールに、実行委員会への支援とあるが、実行の漢
字が誤りである。

竹岡 会長 | P11 の個人商店と発言されたか。

内海 委員 | 空店舗があるところに個人商店が起業できるように支援があればよいと思う。

竹岡 会長 | 空き店舗支援は継続しているのか。

事 務 局 | 継続している。

竹岡会長 | 個人的な話だが、市のあきない応援事業等の利用で事業を継続した。廃業するのではなく、事業継承ができるような何らかの手が差し伸べられるとよい。

竹岡会長 | P14-P15 特産品販売額は、美東、秋芳の道の駅両方の販売額か。平成 31 年までに 10%の売上増加しか目指さないのか。

事務局 | 総合計画の指標から掲載している。

古谷委員 | P21 3-2-1 具体的な取組のスケジュールについて、子育て支援センターの実施と児童クラブ等の実施という表現に違和感がある。少し工夫してもらえないか。

竹岡会長 | 美祢市の家庭保育園について、資金支援等できないか。制度はあるが現在、実施は 0 である。場合によっては、ノウハウ、資金、場所がないためなのか。

岡山委員 | 待機児童もいないため、必要がないのではないか。

田中委員 | 子ども自体が減少しているのに加え、美祢市では、幼稚園が認定こども園に認定されて二つの幼稚園がこども園となり、0 歳児からの受入れ場所があることと、家庭保育園を行うためには、看護師の資格が必要だからではないか。

竹岡会長 | 条例改正で准看護師でもできるようになり、その場合は保育士の免許は必要なくなる。そうした背景はあるが、待機児童がいない中では必要性がないか。

事務局 | 家庭的保育事業についての効果、地域型保育事業等、色々種類がある。小規模保育までいくと、家庭的保育事業あるいは事業所内保育は、行政としてもクリアにすべきかもしれない。

田中委員 | あまり知られてないと思う。

事務局 | むしろ今の家庭的保育事業、事業所保育事業等、支援センターなど検討していくべきだと考える。

岡山委員 | P20 目標が現状に対してあまり増えていないように思える。美祢市で生まれてくる子どもの数は、現在 130 名程度である。結婚する前に出会いの機会をしっかりと設ける。われわれの世代の人は、仲人をしてきた人ばかりである。時代が変わってきた。干渉しすぎるのはよくないかもしれないが、世話をする人を増やす支援策がないと、目標に達することは難しいだろう。具体的な施策をいれるべき。NPO も出会いの場を設けてはいるが、婚姻にはいたっていない。NPO も大事だが、地域の方で事情をよくわかっている人がしっかりとつなげていく。そうしたところをもう少し強化し、どのように強化していくかを考える必要があると思う。

結婚して子どもができた場合、資金面や検診等において国からの助成もあるが、美祢市には産婦人科がない。他市に行かなければならないため、負担が大きい。そうした事に対しての支援策や補助策があるとよい。老人福祉のように、タクシー乗車への支援な

ども重要ではないかと思う。

地域の“おせっかい屋さん“に対し、産官学の協力と連携において支援できる仕組みをつくるのはどうか。美祢市は他市に比べ、結婚前から出産までここまで配慮しているということをわかりやすく戦略に入れ込むとよいのではないか。

竹岡会長 具体的には何かあるか。

岡山委員 結婚をつなげる方への報酬等の支援策も必要だと思う。出産までの支援策としては、タクシー券配布や消防署との連携等を、すでに行っている他市の山間地域もあり、組み込んでいくことも大事だと思う。

佐々木委員 P8（仮称）美祢市観光まちづくり組織 DMO について、どのようなイメージを考えているのか。観光協会が DMO に移行するのか、新しく組織を並行して作るのか、様々な組織を束ねて組織を作るのか。

P13 1-2-1 観光客のリピーター率とあるが、新規の観光客数の指標も加えてはどうか。新規の囲い込みとリピーターを増やしていくという二点より、お客様を呼びこむ体制があればよいのではないか。

事務局 P8 について、観光協会が核となり、観光協会を発展させるイメージである。新しく組織を作ると、競合や業務が重複することも考えられるので、観光協会が中心となることを考えている。既存の第3セクターや道の駅等もあるが、将来的に収益を上げられるような仕組みも考えている。組織というよりは司令塔としての機能の土台作りと考えている。

P13 について、リピーター率の他には、新規の方の指標も考えたい。アンケート実施を想定しており、その中に新規かリピーターのどちらかを判別できるようにしたい。目標値は、観光振興計画で掲げているものであり、新規の囲い込みの目標値は、適当な数値等の意見をいただきたい。

大呑副会長 三世代が同居できるような施策、事業の展開が必要ではないか。一番は、子育て世代の負担軽減であり、担い手の確保等の様々な面において、三世代同居が可能となる支援を行政が行えないか。推進してはどうかと思う。

事務局 戦略のなかに盛り込む。

内海委員 美祢市に産婦人科がないことは負担が大きい。妊婦が車の運転をすると、事故を起こしやすいと統計でもわかっている。美祢市に産婦人科や小児科を誘致できないか。

事務局 出産等については、産婦人科のないことは大きな課題となっている。産婦人科医療を提供する場所を確保するためには人材と経費が必要となる。現状の対応策としては、市外にそうした施設があれば、コスト軽減をするほうが現実的であると考えている。

子育てにおいては、小児科は充実していると思う。他の中山間地域と比較しても、山口大学の協力もあり、一応小児科医が来ている。子育てしている人のライフスタイルに

合っていないかもしれないが、子育てというのはコストがかかるものであり、医療の提供に合わせるような社会を作っていくことが必要だと思っている。

産科等出産の負担軽減で何らかの施策を考えていきたい。

竹岡会長 | とりあえず負担軽減等、何らかの施策を考えることが必要だろう。

田中委員 | P21 3-2-2 子どもと楽しめる場所について、一箇所は工事中だが、もう一箇所はどこ
の場所なのか。

事務局 | 道の駅美東である。

田中委員 | 遊具があるのはもちろんだが、芝生があるような自由に遊べて運動ができる広場は考
えているのか。小学校等のグラウンドもあるが、ゲートボールやグラウンドゴルフ等さ
れており、子どもが自由に遊べる場所の確保は小学校以外にも必要であると思う。近く
で不審者等入ってこないような安全な広場を考えてほしい。小学校が終わっても、統合
されたため広場から遠い子どもも多く行きづらい。田んぼでも遊べず、道路も交通量が増
えて危険である。自由に安心して遊べる環境も少しは必要だと思う。桜山公園がある
が、草刈りもされなくなり、せっかくある場所をもっと綺麗にしたらいいと思う。

事務局 | 公園の適正管理も必要である。公共施設の全市的な見直しの中、施設を複合化して、
子どもから高齢者まで利用できる施設にしていこうと考えている。

竹岡会長 | 公園管理は通年予算に組んでやっていく。

堀田委員 | P18 UIJ ターン受け入れ人数の平成31年の目標値138人とあるが、5年間での値か。

事務局 | 5年間である。

堀田委員 | 空き家バンクの登録物件の成約件数は、市営住宅もあるためとは思いますが、目標数が年
平均5件、5年間で25件では少なくないか。必ずしも二つが連動しなくてもよいが、一
般的に考えて移住するとなると、仮に市営住宅に入るとしても、一時的に仮住まい的な
物が必要だと思う。お試し期間も含め、ある程度安く住めるのは田舎暮らしの最大の魅
力であると思う。今後増加する空き家については、空き家バンクへの登録を多くしても
らう流れは作っておいた方がよいのではないか。この目標値はもう少し上げてよいか
なと感じた。

竹岡会長 | 市営の分譲住宅宅地はどれ程あるのか。

事務局 | 宅地では、平成27年4月現在は337区画の市営分譲地がある。

竹岡会長 | 施策としては、空き家活用と分譲の両方の思いがあるだろう。空き家対策は、かなり
本腰を入れないといけない。

事務局 | 空き家バンクは不動産と連携をとり、実効性のある空き家バンク制度にしていきたい。
住みやすくするために、家屋の改修、特に仏壇、下水やトイレ等の支援策をしっかり
して、利用できる空き家にしてから紹介する。ある意味、不動産業務みたいなことも
含めてやっていきたい。

竹岡会長 | 今、国にも支援の上乗せを密かに交渉している。なかなか首を立てにふらない。最悪な場合は、市が上乗せしてもと市長は考えているらしい。今の表現はどうするか。

事務局 | 書き込めるようにする。

竹岡会長 | 分譲宅地も含めてはどうか。

竹岡会長 | 指摘頂いたものに修正を加えた後、パブリックコメントに盛り込んでいきたいと考えている。

山本委員 | P15 集落営農法人数は、現状は20法人ではなく23法人ではないか。

竹岡会長 | 23か。確認を。

4. その他連絡事項（今後の予定）

本日の意見等を踏まえて修正等行い、来週の8日か9日にパブリックコメントを開始したいと考えている。パブリックコメントの30日間の後、次回の審議会開催を10月中旬頃に考えている。日程調整については、後日ご相談する。10月13日の週を予定している。

5. 閉会

（会長から閉会の宣言。）

以上